

「第2回情報フォトニクスシンポジウム：  
分野融合による CMOS イメージセンサの進化を目指して」の報告

報告者：香川景一郎（静岡大学）

【日時】2015年10月29日(木) 9:00-11:45

【場所】筑波大学 東京キャンパス 文京校舎（東京都文京区大塚 3-29-1）

（Optics&Phototics Japan (OPJ)2015 E 会場）

【主催】日本光学会 情報フォトニクス研究グループ

【企画担当】日本光学会 情報フォトニクス研究グループ+CMOS ワーキンググループ

【参加者数】約 60 名

【プログラム】

9:00-9:25 【29aES1】「X+CMOS」 ○香川 景一郎（静岡大学電子工学研究所）

9:25-9:50 【29aES2】「プラズモニクス+CMOS」

○小野 篤史（静岡大学電子工学研究所），

宮道 篤孝（静岡大学大学院総合科学技術研究科）

9:50-10:15 【29aES3】「時間分解+CMOS」

○安富 啓太，川人 祥二（静岡大学電子工学研究所）

10:15-10:30 休憩

10:30-10:55 【29aES4】「視覚+CMOS」○秋田 純一（金沢大学）

10:55-11:20 【29aES5】「コンピューテーショナルフォトグラフィ+CMOS」

○長原 一（九州大学）

11:20-11:45 【29aES6】「ユーザーインターフェース+CMOS」○小室 孝（埼玉大学）

【報告】

情報フォトニクス研究グループ+CMOS ワーキンググループは、分野融合を通じて、CMOS イメージセンサを正常進化では達し得ない未来の形へと進化させることを目的としている。そのために、「X+CMOS」をキーワードとして、CMOS イメージセンサとそれを取り巻く異分野との相互作用の中から、新しい方向性を探っている。+CMOS ワーキンググループの理念・目的と活動を光学関係者に広く知ってもらうために、第2回情報フォトニクスシンポジウムとして、OPJ2015においてシンポジウムを開催した。本シンポジウムは、CMOS イメージセンサの最先端技術動向と活動目的の説明、Xとしてプラズモニクス、時間分解、視覚、コンピューテーショナルフォトグラフィ、ヒューマンインタフェースに関する講演から構成した。講演は+CMOS ワーキンググループのコアメンバーにより行った。光学関係者だけではなく、イメージセンサメーカーからの参加者も見られた。